

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

子育て支援ネットワークを基盤としたソーシャルキャピタルの醸成
～M校区子育てネットの取組み～

応募グループ名称及び氏名

（グループの場合は代表者名）

久留米市健康福祉部保健所地域保健課地域保健チーム

代表者：河原 菊子

☆クリスマススカーレー会の様子☆



勤務先：久留米市役所

所 属：健康福祉部 保健所 地域保健課 地域保健チーム

所在地：〒830-0022

福岡県久留米市城南町15番地5

TEL：0942-30-9033

FAX：0942-30-9833

◇活動方針

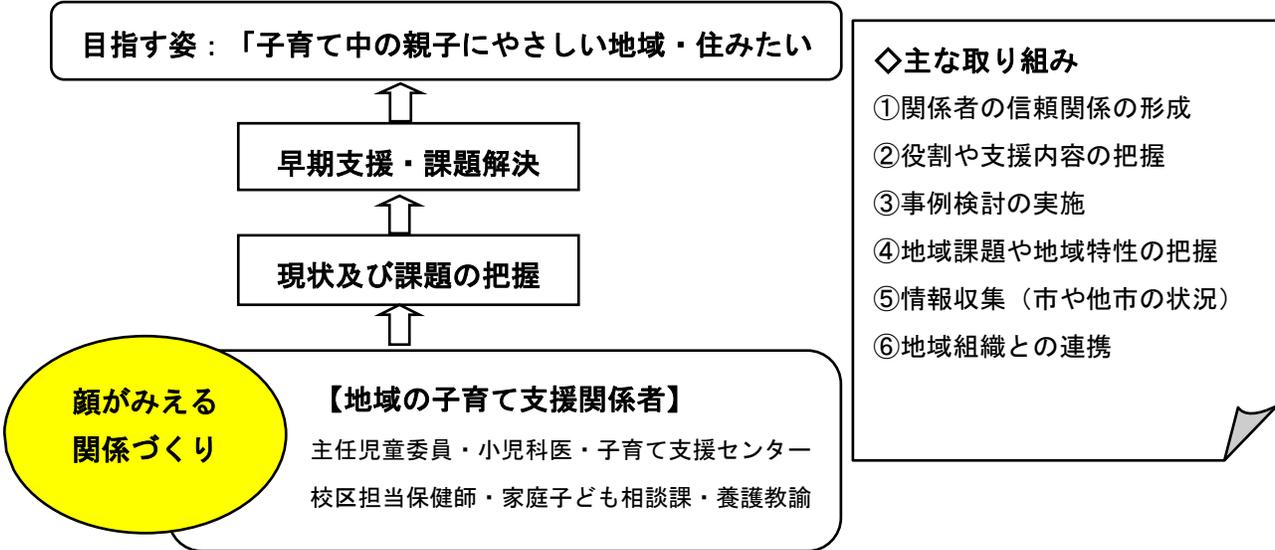
久留米市は平成21年度から、保健師の地区担当制を導入し、市民1人ひとりを大切にしたい個別支援を中心に、地域との信頼関係を深めながら、住民協働の視点を踏まえ、地域のネットワーク構築を目指した保健活動を推進している。

M校区において、校区担当保健師と地域の主任児童委員、小児科医や子育て支援センター保育士が連携を深める中で、校区が抱える課題が見えてきた。従来から地域の子育て支援関係者が個別のハイリスク案件に関わる状況はあったものの、関係者が一堂に集まり情報を共有する場は無く、地域の課題を見据えお互いの役割について十分に把握できていない現状があった。これらを踏まえ、子育て支援関係者の中に「子育て中の親子にとってやさしい地域、住みたい地域を目指すために、顔がみえる関係をつくりたい」という共通認識が生じ、「M校区子育てネット」を設立することになった。

「M校区子育てネット」は母子のハイリスク事例や処遇困難事例に対し、健やかな子育てができる環境づくりの目的で、地域の子育て支援関係者である小児科医、主任児童委員、子育て支援センター保育士、M校区担当保健師、家庭子ども相談課職員、小学校養護教諭等が定期的集まり、顔のみえる関係づくりを育む中で、地域の現状や課題を共有し、その課題解決を目指して連携及び協働するための地域ネットワークである。

活動成果報告書

<活動スキーム>



◇活動内容とその成果

【活動内容】

①定期的な会議の開催

平成 26 年 10 月 23 日に初回会議を実施し、その後定期的に開催
(H28 年 1 月末現在で全 12 回開催)

②事例検討の実施

校区の処遇困難事例等について検討し、今後の支援方針や専門的見解を聞く場を設けている。

③地域課題の発掘

地域の現状や課題について情報交換を行い、地域課題を明確にする。

④課題解決のための取組み

把握した地域課題解決のため、地域の自主的な取り組みに繋げる。

【取組みの成果】

(1) 地域の見守り支援ネットワークによる地域課題の早期発見・早期支援

定期的な会の開催により、顔がみえる関係性につながり、子育て支援関係者間の信頼関係を構築することができた。このことで、処遇困難事例などへの個別ケース対応に係る調整を取り易くなり、課題の早期発見及び早期支援に繋がっている。また、処遇困難事例への対応では関係者間の連携体制が深まり、よりきめ細やかな切れ目ない支援の提供ができるようになった。保健師の訪問について拒否的である母子ハイリスク事例への支援では、M 校区子育てネットの場を活用し関係者へ事前に情報提供及び課題の共有を行った。保健師の介入が困難でも、小児科受診時や主任児童委員の訪問活動の機会を利用し、地域での見守り支援を継続することができている。行政職員だけでなく主任児童委員やかかりつけ医など、地域住民が連携することで、問題を抱える親子を地域で見守る支援体制ができたことは、活動の一番の成果である。

(2) 子育て支援者間の情報共有と相互理解

参加者同士の情報共有は、相互の役割や現状について理解を深め、「子育て中の親子にやさしい地域・

活動成果報告書

住みたい地域」を目指したいという共通の想いに繋がり、協働して課題を解決するための基盤となった。また、保健師活動についても理解が深まり、母子支援以外の健康教育や健康相談の地域依頼が増加した。情報共有を積み重ねることで、校区担当保健師が校区特性や地域課題をより具体的にかつタイムリーに把握することが可能になり、地域診断を行う際の質的データの集約も容易になった。活動の中で把握した地域情報や住民の声は、PDCA サイクルに基づく保健活動の大切な情報源となっている。

(3) 子育て支援者の資質向上と不安軽減

事例検討の場では、処遇困難事例の支援の方向性について、小児科医や保育士、教諭、保健師など専門的立場での意見交換や助言が活かされ、参加者自身のスキルアップにも繋がっている。

主任児童委員からは、「活動の中では、この対応で良いのか不安に感じ、支援に行き詰まる事も多い。悩みを気軽に打ち明けられ、より専門的な立場でアドバイスがもらえる場ができたので、気持ちが楽になった。」「行政サービスや支援制度について知る機会になり、とても勉強になる。」など、主任児童委員の地域活動にも良い影響を与えているという意見が聞かれた。

(4) 地域課題の発掘、課題解決に向けた地域の自主的活動の創出

「M 校区子育てネット」活動では、地域の様々な現状や課題について関係者で情報共有や検討を重ねてきた。その中で、ネグレクト家庭の児童数名が給食のない長期休暇中に食事の確保が困難である事を把握した。この地域課題は、活動の中で早急に取組むべき喫緊の課題であると考え、試行的ではあったが、課題解決のため地域が自主的に取組むこととなった。

顔のみえる関係が構築されたことで地域が抱える潜在的な課題を発掘でき、その解決に向けた速やかな地域の自主的活動に繋がった。行政の一方的な支援ではなく、地域住民が自ら課題に取り組む活動であり、継続性が期待される活動である。

(5) 長期休暇中の児童への食事援助の取組み（クリスマスカレー会の開催）

平成 27 年 12 月 24 日、校区のコミュニティーセンターに於いて、児童同士が楽しく食事ができ交流につながる場の提供目的で「クリスマスカレー会」を開催した。98 名の児童が参加し、カレーやケーキを食べた後、ビンゴゲームを楽しんだ。カレーを御代わりする児童も多く、準備したカレーは直ぐに無くなった。食事の際、上級生が下級生を気遣う場面も見られた。学童保育の先生からは、「後日、皆で楽しそうにカレー会の思い出話をしていた。」と報告があった。また、カレー会には校区社会福祉協議会の会長や副会長、学校サポーター、民生委員児童委員、子育てサロンボランティアスタッフなど、ネットワークメンバー以外の地域住民の参加もあった。今回のカレー会は、児童同士の交流のみならず、地域で子育て支援をする大人と子ども達をつなぐ良い機会になった。

◇今後の計画

今後は、把握した地域課題の解決に向け継続的な活動を展開していくとともに、保育園や幼稚園、スクールソーシャルワーカーなど地域の子育てに携わるより多くの関係者が「M 校区子育てネット」に参加できる様、今後も子育てしやすい環境づくりを目指し取組んでいく予定である。

また、これまでの取組みをモデルとし、久留米市全体に顔のみえる関係づくりを基盤とした地域のネットワークの輪をさらに拡大し、「子育てしやすい安全安心なまち久留米」を目指していきたい。